

1 自己評価及び外部評価結果 (富士)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101465		
法人名	有限会社 真寿会		
事業所名	グループホーム楽楽苑 富士		
所在地	岡崎市真伝2丁目1番地4		
自己評価作成日	平成22年 1月 5日	評価結果市町村受理日	平成22年 5月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372101465&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成22年 1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ごとの状態に合わせたケアに取り組んでおり、利用者さんがその人らしく暮らせるように支援しています。季節ごとの掲示物を掲示し、今の時期は皆で歌を唄ったりしながら楽しく暮らしております。盆踊りやお祭り、地域の催し物(芋掘り体験やプランター菜園作りなど)、小学生の訪問(職場体験や慰問、敬会参加など)地域と利用者さんとのかかわりを大切にしております。毎月その季節ごとの行事を行い、利用者さんに季節感を感じてもらえるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流が盛んに行われており、地域の小学校からは様々な機会を通して小学生がホームを訪れている。ホームもまた、地域の招きに応じて各種のイベント(祭りや盆踊り)に参加している。運営推進会議が軌道に乗ってきて、ホームの課題として話し合った事項が会議メンバー(地区総代)の尽力で解決された。カーブミラーの設置や街路灯の整備等々である。ホーム運営に関して家族の協力的な姿勢が顕著であり、家族アンケートに関してもほとんどの家族から回答があった。ホームイベントとの併催となるが、年2回の家族会が行われており、家族同士の話し合いに意義を見出している家族も多い。日帰りバス旅行にも家族の参加がある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見えるところへ掲げいつでも目に入るようにしている。	地域との連携を大切にしているホームであり、理念を「地域とともにゆっくり ゆったり その人らしく」と謳っている。利用者一人ひとりを尊重しようとの思いが伝わってくる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩中の挨拶や通勤時間等、職員側からの挨拶も心がけている。最近では地域の行事に参加したり、市の催しに参加したり積極的に活動している。	小学生の体験学習を受け入れ、ボランティアの慰問もある。一方では、地域の盆踊りやお祭りへの呼びかけがあり、積極的に参加している。地域とは相互の交流ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者以外の高齢者には目がいくが何が出来るのかわからない事もある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災についての取り組みや地域の状況などの把握、施設内での現状報告等を行っている。	規定通りの運営推進会議が開かれており、メンバーである地域総代を通してホームの要望事項が受け入れられた。カーブミラーの設置や街路灯の整備等が成果として挙げられる。	今後の会議では、ホームが地域に対して貢献できる社会参加についても意見交換をしてほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問がある時には連絡したり直接窓口へ行くようにしている。また、市からの入居希望の方を紹介されたりする事もある。	行政との窓口は施設長の役割となっているが、居宅介護支援事業の責任者をも兼務している関係上、担当者とも馴染みの関係ができており、良好なコミュニケーションが図れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行事等に関するものは張り出して常に見えるところに掲示している。また、年に1度、スタッフに対して身体拘束をしないケアの研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。	身体拘束や虐待の外部研修には積極的に参加している。ホーム内の職員研修では、身体的な拘束だけでなく、スピーチロックやドラッグロックについての意識付けも行っている。	ユニット入口の施錠に関しては、施錠することの良し悪しではなく、施錠しないケアを目指すことの意味や、施錠することによって起こる弊害について話し合っていたきたい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主な虐待等に関してはスタッフルーム内に掲示し、年に1度スタッフに対しての研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、知識を得ようとしている。現在の入居者さんに対しては必要性がある方がいない為、支援はしていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの機会を多く作り、わからない事なども積極的に聞くようにし、お互いが理解、納得をした上で行うようにしている。また、利用者さんの状況等に関しては家族の方に記載等してもらいながら行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中にも盛り込んだりしている。また、日々の生活の中や相談員の来苑時などにも設けている。	ホームイベントとの併催となるが、年に2回の家族会が開かれ、家族同士の交流の中から有効な意見も出ている。家族アンケートでは、職員へのねぎらいの言葉が多かった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で聞いたり、日々の業務の合間などで行っている。	毎月のミーティングの中で、職員はそれぞれの意見を出し合っている。管理者と職員との個別の面談はないが、ホームの外での懇親会などでは、職員の本音を聞くことができる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりで評価しそれをふまえて賞与を出したり昇給したりしている。また、出来る限り職員に任せて職員間で施設を作っていくてもらうようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、法人内の管理者会議を行ったり、直接現場を確認したりし職場内で研修や勉強会を行ったり法人内全ての事業所合同で勉強会をしたりしている。また、外部研修なども参加してもらうようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市、他市共、相互訪問等行いながら情報交換や意見交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員1人ひとりが気を付けて見守り、聞く時間を設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から時間を確保しながら場の雰囲気を作りながら話しを聞く機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望があれば色々なサービスなどを紹介しながら行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は一緒に摂るようにイベントなどは職員も一緒に楽しめる事を計画目標としている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係があまり理解できず、把握しきれていない。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の出入り、喫茶店(なじみ)への外出等を行い関係の継続を図る。	喫茶店のオーナーがホームを訪問し、利用者も喫茶店を交流の場として活用している。慰問ボランティアとして来苑したフラダンスのメンバーが、外出を誘ってくれることもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からの状況や精神状態をふまえながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などでの退居がほとんどであるが、今後は断ち切らない関係作りをしていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いや家族に家での状況を聞きながら対応している。	猫好きの利用者は、猫と触れあえないことで奇立ちの感情を表していた。家族に依頼して、猫を連れてきてもらったことで、利用者は笑顔を取り戻した。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査の際の観察や入所時の家族による生活歴の記入をもとにカルテ等に記載し把握できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスやミーティングを通じ定期的に行っていききたい。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当が主となりカンファレンスを開いて意見交換などを行っている。	定期的な介護計画の見直し以外に、骨折によって身体機能の状態が変わったことを理由とした見直し例があった。	計画の見直しは、期間や身体の状態の変化だけでなく、思いや意向の変化(自己評価23)があった時にも実施すれば、“その人らしさ”の支援はさらに深いものとなる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティングなどを通じ、現状の把握をしていきながら見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで可能な範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなど利用者の必要に応じ協力支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日には往診があり、緊急時には電話連絡により受診又は往診をしてもらっている。	提携医をかかりつけ医としている場合の通院付き添いは職員が行っているが、それ以外のかかりつけ医は家族対応となっている。看護師資格を有する職員2名の存在が、家族や職員の安心感につながっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の往診時に一緒に来て相談等行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とこまめに連絡をとったり面会に行き直接確認したりしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話しをしている。また、重度化の際は施設、家族、かかりつけ医を含めて今後の支援方法について話し合いを行っている。	本人・家族の意向、主治医の意見、職員の力量と勤務体制、それらの条件が揃った場合には、可能な限りの終末期ケアを実施しようとの機運がある。ただ、介護経験の浅さから不安を訴える職員もあり、管理者は教育・研修の必要性を感じている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員1人ひとりにマニュアルを渡している。また、スタッフルームにマニュアルを保管している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の動きに関してはスタッフルーム内に掲示しているが、地域協力に関しては運営推進会議において難しいとの助言あり。定期的な訓練も行っている。	年2回の防災訓練を行っており、そのうち1回は夜間を想定して実施された。2階、3階から避難用スロープを使った避難訓練も実施した。22年中には、スプリンクラーの設置が予定されている。	夜間の事故・災害では、多くの犠牲者が出る危険性が高い。起きてからの対応・訓練もさることながら、起こさないことにも再度意識付けを願いたい。夜間勤務体制の見直しも必要。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については年に1度研修会を開いたり外部研修会に参加してもらうように促している。	利用者の呼称(呼び名)は、特別なルールがあるわけではないが、利用開始時に家族と話し合っ、本人が一番気持ちよく感じる呼び名を使うことにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が沢山あると分からなくなってしまう方もみえる為、その時々で場面作りをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの希望があまりなく職員からの声掛けで動く事が多い。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事などでお化粧をしたり、いくつか服のコーディネートをし利用者を選んでもらったりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ってももらったり配膳、下膳等や食器洗い、食器拭き等をしてもらっている。また、プランターで野菜を育てたりし野菜の世話を利用者にしてもらったりしている。	月曜から土曜日までは、食材サービスを利用したメニューになっている。日曜日は、利用者の嗜好に配慮して職員が献立を決めて調理している。下膳や食器拭き等の後片付けには、女性利用者の参加が目立つ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が確保できるようボードを用いてチェックしている。また、その方の好み等を取り入れ支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の日課として行っている。また、一人ひとりに合わせ、歯磨き粉、うがい薬、口腔内清拭など分けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を用いて排泄パターンをチェックしている。	利用の期間が長くなった利用者を中心に、高齢化、重度化が進み、排泄に関してのレベル低下が起きている。極力トイレで排泄してもらえるよう、排泄パターンを把握してのトイレ誘導が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の把握や下剤による調節、アイスやヨーグルトなどの摂取や毎日の体操などを行い支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の状態等に合わせて行っている。	2日に1度の入浴機会があるが、風呂嫌いの利用者もあり、職員の工夫した声掛けによって入浴できている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態などを考え、日中動いてもらったり、布団に入るまで一緒にいたりに対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はカルテにはさんでいる。また、服薬はちゃんと飲んだか確認し用紙にチェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や裁縫、歌などその人に合ったものを日常的に提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩も含め、その日の利用者の状態や天気等見ながら行っている。	利用者の希望と天候等を考慮しながら、散歩や買い物の外出支援を行っている。年1回、家族参加の日帰り旅行を行っており、利用者にとっては楽しいイベントとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態を見ながらの支援。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせていつでも出来るようにしている。その際、職員から前もって家族に連絡するようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居間に花を飾ったり、音楽を流す時間やテレビを見る時間を作っている。	廊下の壁には、様々なイベントに参加したときの写真が掲示しており、利用者の表情豊かな笑顔があふれていた。ホールでは、女性利用者を中心に、新聞紙を細工してごみを包む容器を作る作業が行われていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にいくつかソファを置いたり椅子をいくつか並べ工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、話しをし極力本人の使用していたものなどを持ち込んでいただけるように依頼している。	家族は協力的ではあるが、拝見した居室はいずれも馴染みの品が少なかった。ほとんどの利用者が昼間はホールで過ごしており、居室は休憩場所や寝室としての役割である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間やトイレなどには名前を表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果 (葵)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101465		
法人名	有限会社 真寿会		
事業所名	グループホーム楽楽苑 葵		
所在地	岡崎市真伝2丁目1番地4		
自己評価作成日	平成22年 1月 5日	評価結果市町村受理日	平成22年 5月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372101465&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成22年 1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ごとの状態に合わせたケアに取り組んでおり、利用者さんがその人らしく暮らせるように支援しています。季節ごとの掲示物を掲示し、今の時期は皆で歌を唄ったりしながら楽しく暮らしております。盆踊りやお祭り、地域の催し物(芋掘り体験やプランター菜園作りなど)、小学生の訪問(職場体験や慰問、敬老会参加など)地域と利用者さんとのかかわりを大切にしております。毎月その季節ごとの行事を行い、利用者さんに季節感を感じてもらえるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見えるところへ掲げいつでも目に入るようにしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩中の挨拶や通勤時間等、職員側からの挨拶も心がけている。最近では地域の行事に参加したり、市の催しに参加したり積極的に活動している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者以外の高齢者には目が行くが何が出来るのかわからない事もある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災についての取り組みや地域の状況などの把握。施設内での現状報告等行っている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問がある時には連絡したり直接窓口へ行くようにしている。また、市からの入居希望の方を紹介されたりする事もある。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行事等に関するものは張り出して常に見えるところに掲示している。また、年に1度、スタッフに対して身体拘束をしないケアの研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主な虐待等に関してはスタッフルーム内に掲示し、年に1度スタッフに対しての研修を開いたり、外部研修がある時には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、知識を得るようにしている。現在の入居者さんに対しては必要性がある方がいない為、支援はしていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの機会を多く作り、わからない事なども積極的に聞くようにし、お互いが理解、納得をした上で行うようにしている。また、利用者さんの状況等に関しては家族の方に記載等してもらいながら行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中にも盛り込んだりしている。また、日々の生活の中や相談員の来苑時などにも設けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で聞いたり、日々の業務の合間などで行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりで評価しそれをふまえて賞与を出したり昇給したりしている。また、出来る限り職員に任せて職員間で施設を作っていくてもらうようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	月に1度、法人内の管理者会議を行ったり、直接現場を確認したりし職場内で研修や勉強会を行ったり法人内全ての事業所合同で勉強会をしたりしている。また、外部研修なども参加してもらうようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市、他市共、相互訪問等行いながら情報交換や意見交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員1人ひとりが気を付けて見守り、聞く時間を設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から時間を確保しながら場の雰囲気を作りながら話しを聞く機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望があれば色々なサービスなどを紹介しながら行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食等は一緒に摂るようにし、イベントなどは職員も一緒に楽しめるような計画目標を立てている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の双方の希望に合わせた関係作りを課題としている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の出入り、喫茶店(なじみ)への外出等を行い関係の継続を図る。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や態度等を見ながら食事の席などゆっくり話しができる空間を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老健や特養など本人に合わせた施設を家族と共に探し、今後の生活の相談にのるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉、職員間の情報交換、家族の意向等をふまえ話し合いを行っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査の際の観察や入所時の家族による生活歴の記入をもとにカルテ等に記載し把握できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスやミーティングを通じ定期的に行っていきたい。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当が主となりカンファレンスを開いて意見交換などを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティングなどを通じ、現状の把握をしていきながら見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで可能な範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなど利用者の必要に応じ協力支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日には往診があり、緊急時には電話連絡により受診又は往診をしてもらっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の往診時に一緒に来て相談等行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とこまめに連絡をとったり面会に行き直接確認したりしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話しをしている。また、重度化の際は施設、家族、かかりつけ医を含めて今後の支援方法について話し合いを行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員1人ひとりにマニュアルを渡している。また、スタッフルームにマニュアルを保管してある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の動きに関してはスタッフルーム内に掲示しているが、地域協力に関しては運営推進会議において難しいとの助言あり。定期的な訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については年に1度研修会を開いたり外部研修会に参加してもらうように促している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が沢山あると分からなくなってしまう方もみえる為、その時々で場面作りをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの希望があまりなく職員からの声掛けで動く事が多い。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事などでお化粧をしたり、いくつか服のコーディネートをし利用者を選んでもらったりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ってもhらったり配膳、下膳等や食器洗い、食器拭き等をしてもらっている。また、プランターで野菜を育てたりし野菜の世話を利用者にしてもらったりしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が確保できるようボードを用いてチェックしている。また、その方の好み等を取り入れ支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の日課として行っている。また、一人ひとりに合わせ、歯磨き粉、うがい薬、口腔内清拭など分けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を用いて排泄パターンをチェックしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の把握や下剤による調節、アイスやヨーグルトなどの摂取や毎日の体操などを行い支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の状態等に合わせて行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状態などを考え、日中動いてもらったり、布団に入るまで一緒にいたりに対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はカルテにはさんでいる。また、服薬はちゃんと飲んだか確認し用紙にチェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人のバックグラウンドに合わせた支援をしている。また、どんな時でも本人を褒めるように対応している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩も含め、その日の利用者の状態や天気等見ながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望に合わせて行くようにしている。支払いも見守りのもと可能な限り行ってもらうようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望に合わせていつでも出来るようにしている。その際、職員から前もって家族に連絡するようにしている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には季節に合わせた掲示物を飾ったり、廊下には行事の写真や苑内新聞を掲示するようにしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間の中にいくつかソファを置いたり椅子をいくつか並べ工夫している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所の際、話しをし極力本人の使用していたものなどを持ち込んでいただけるように依頼している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>状況に合わせて手すりを新たに設置したりふらつきが強くなってきた利用者さんに対してはシルバーカーを家族に依頼したりしている。</p>		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画書の記入内容が身体状態の変化や、介助内容などの記入にかたよってしまっている。	身体の状態の変化だけでなく、その人その人の思いなどをふまえて、前向きに計画を立てられるようにする。	介護計画書の見直し 随時モニタリングを実施する スタッフ間で話し合い、様々な意見を出し、利用者さんの思いを多角的にみていく。	6ヶ月
2	35	防災訓練は夜間日中を想定して実施してきたが夜間時の訓練は常勤スタッフのみが行っていた為、動きが統一されていない。	日中、夜間を想定した防災訓練とも、常勤・パートスタッフ全員が参加し、非常時の流れを理解してもらい動きを統一する。	防災訓練が複数日あっても構わないので、全スタッフに夜間、日中共参加してもらい非常時の流れを把握し動きを統一する。	6ヶ月
3	4	運営推進会議は継続して行えているが内容が同じものになってしまっている。	参加メンバーを増やしたり変えたりし、色々な方に施設について知ってもらい、意見交換ができる様にし理解を得る。	介護相談員さんや民生委員さんや近所の人や町内会消防団さんや交番の警察官さんなどに、運営推進会議の説明をし参加を促す。また、地域の交流会などに積極的に参加し、会議の参加を促す。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。